



社会教育だより

vol. **11**



特集 子ども読書活動の推進～「ねえ!この本読んで。」～

2012.
8月号

photo 家庭での読み聞かせの様子(上) 東部・西部社会教育研修センターの講座の様子(下)



基礎から学ぶ「しまねの社会教育」講座(西部センター)



親学ファシリテーター養成講座(西部センター)



説明力を高めるプレゼンテーション講座(東部センター)

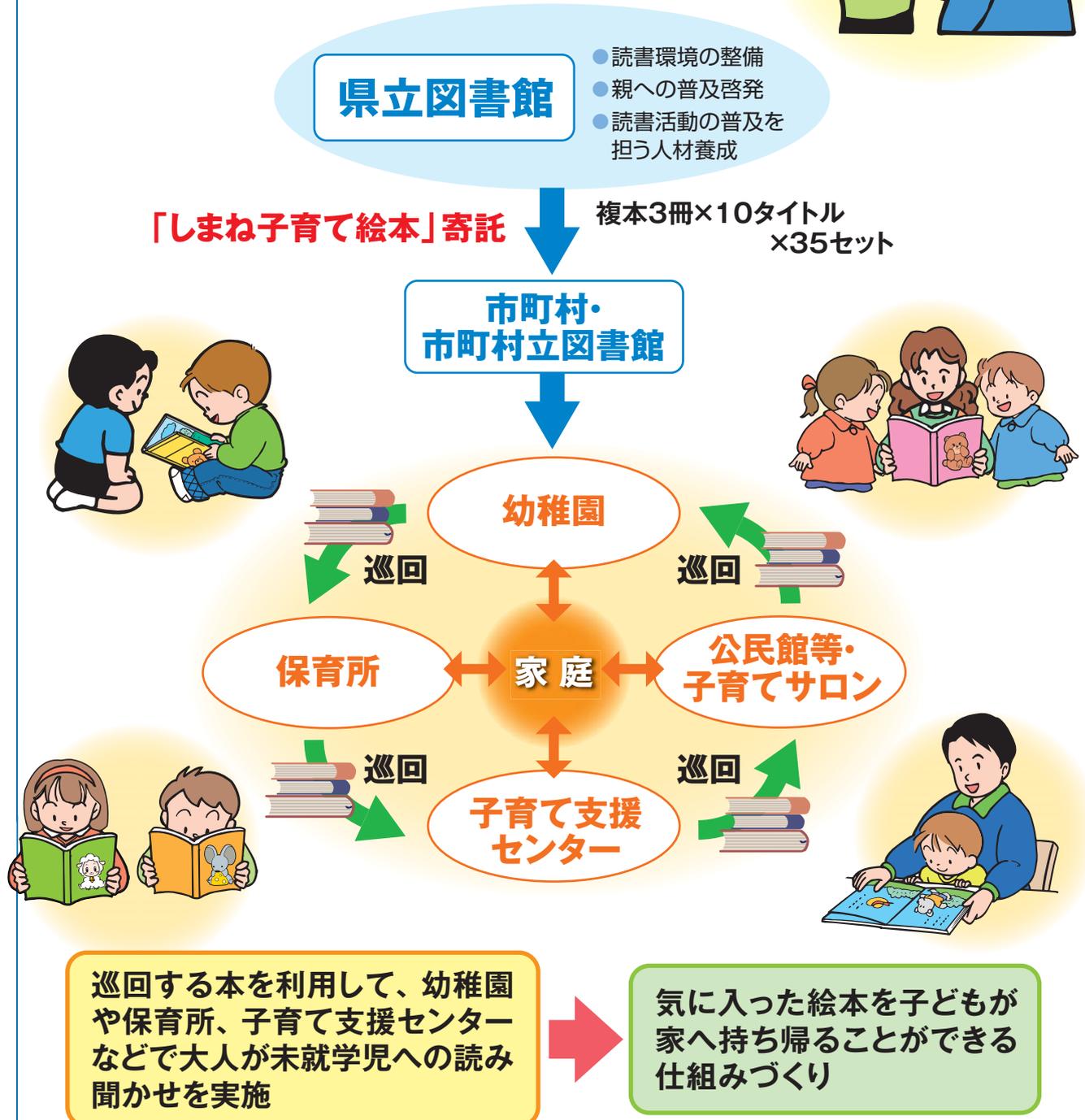
発行:島根県立東部・西部社会教育研修センター

子ども読書活動の推進

島根県ではこれまで『子ども読書県しまね』をキャッチフレーズに、平成21年度からは学校図書館を中心に子どもの読書活動推進事業をすすめてきました。その中で、「もっと小さな頃から読書を」という声が大きくなり、今年度からは未就学児を対象とした『ねえ!この本読んで。』の事業をすすめていきます。

めざす姿と事業の仕組み

子どもたちは、絵本が大好きです。気に入った絵本は何度も読んでもらいたがります。「ねえ!この本読んで。」と、子どもが親に絵本の読み聞かせをせがみ、それに応えて親が子どもに絵本の読み聞かせをする家族の姿をイメージしています。



～「ねえ！この本読んで。」～

ねらい達成のために

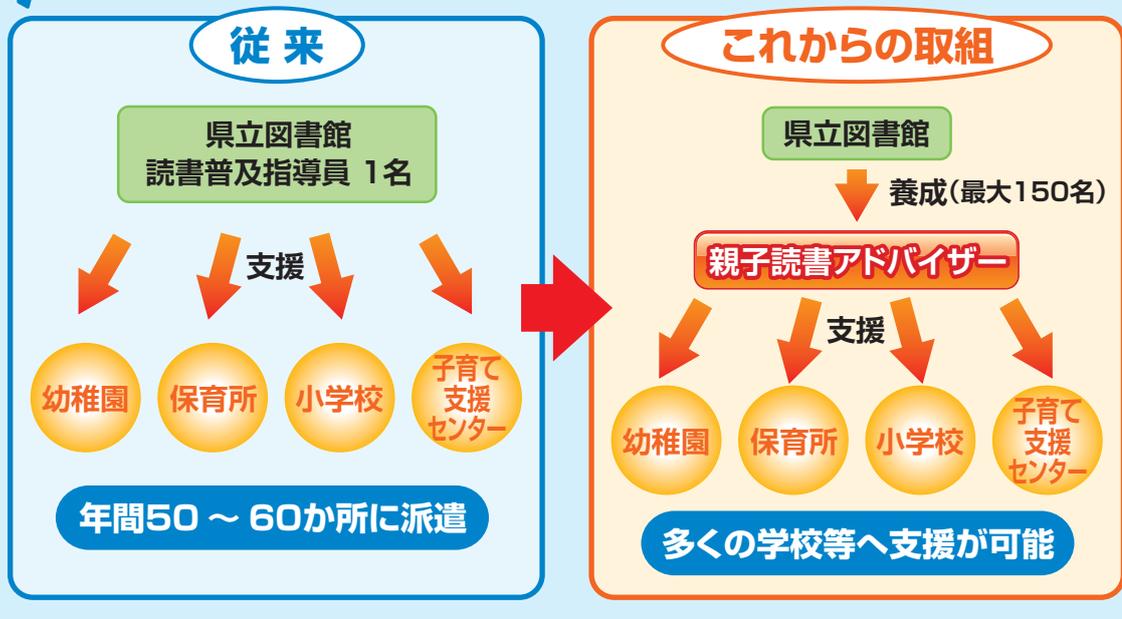
事業のねらいを達成するためには、それぞれの立場での効果的な取組が必要です。

県立図書館

- 「しまね子育て絵本」(1050冊)の選書 → ※下記参照
- 読みメンプロジェクト
(特に男性の子育て参加を促すための講演会、体験活動、イベント等を実施)
- 親子読書アドバイザー養成講座の実施(7月中に実施済)



親子読書アドバイザーが読書普及活動を支援します



市町村・市町村立図書館

- より効果的な絵本の巡回システムの構築
- 利用対象施設との連携
- 親子読書アドバイザーを活用した取組の計画や支援等

保育所・幼稚園 子育て支援センター、公民館等

- 「しまね子育て絵本」の効果的な活用
例. 親子読書アドバイザーを活用した絵本紹介
お父さん、お母さんのための読み聞かせ講座
家庭での読み聞かせの推奨
読書普及サークルとの連携等

※「しまね子育て絵本」とは…

島根県立図書館の「おすすめしたいこどものほん」(ながく読みつがれた本・最近刊行された本)を中心に、読み聞かせに適している絵本を選定し、赤ちゃん基本(0～2歳向け)・幼児基本(3～6歳向け)・テーマ別をそれぞれセットにしたものです。1タイトルあたりの複本を3冊とし、30冊を1セットとしています。これを19市町村と県立図書館、西部読書普及センターに配備します。

読書の普及を目指す事例紹介

これまで、読書サークルをはじめたくさんの団体が、読書普及活動を推進され、それぞれの地域において多大な貢献をされてきました。そして、昨年から新たな取組も生まれています。

子育て支援でイクジイが大活躍!

「グランパン雲南」の取組

「グランパン雲南」は50代～70代の男性たちで作る子育て支援サークルです。絵本の読み語りや紙芝居上演などで市内各地を回っています。

発足は昨年4月までさかのぼります。地域で行われた「男性のための生活自立支援セミナー」の講座に絵本の読み語り教室があり、その受講者であった雲南市新市交流センターの郷原さんが事務局となって、参加者を募ったのがはじまりです。現在会員数は18名で平均年齢は約70歳。子どもたちの笑顔が次回への意欲につながっているとのこと。



幼稚園や保育所からの依頼も多い

県内各地には、いくつもの読書サークルがあり、それぞれの地域において読書普及活動で活躍されていますが、男性のグループはまだまだ珍しいそうです。事務局の郷原さんは、「まずは自分たちが楽しむことが第一。その楽しんだ活動によって子どもたちが喜んでくれればそれでいい。」と、活動のねらいとするところは、リタイアした男性のイキイキした姿のようです。

現在は、月に1～2回程度、近隣の保育所や幼稚園から読み語りの依頼がきます。時にはその取組についての講演を依頼されることも多くなったといいます。このような活動が雲南を起点にして県内の他の地域に広がることを期待されています。

また、郷原さんらは6月18日から20日まで、陸前高田市で読み語りボランティアを展開されました。当地の子どもたちはもちろん、「自宅に引きこもりがちな仮設住宅に住んでいる同年代の男性たちにもメールを送りたかった。」と話されていました。



新市こどもクリスマス会での読み語り

現在、月に1～2回程度、近隣の保育所や幼稚園から読み語りの依頼がきます。時にはその取組についての講演を依頼されることも多くなったといいます。このような活動が雲南を起点にして県内の他の地域に広がることを期待されています。



読み語りだけでなく、手品や紙芝居も定番

グランパン雲南の取組から見えてくる姿

男性の社会的自立→社会参画を考える

肩の力を抜いて地域の子どもと一緒に楽しむことが大切!

息の長い活動として定着

気が付けば、素晴らしい子育て支援

地域に
なくてはならない
存在



社会教育に必要な知識やスキルが学べる

社会教育主事講習

急速な時代の変化に対応するため、島根県では社会教育が核となって「地域力」の醸成や再生の取組を進めてきました。今後、島根県ではますます社会教育の力が必要とされてきます。この社会教育の推進役となるのが「社会教育主事」です。この資格は、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターや大学が主催する「社会教育主事講習」を受講することにより得ることができます。島根県では毎年多くの学校職員や社会教育実践者が受講しています。

今回は「社会教育主事講習」の内容と受講された方の講習に対する感想を紹介します。

社会教育主事講習とは

平成24年度 社会教育主事講習

■ 社会教育主事講習A (H24.7.24～8.28)

※主として一括履修

■ 社会教育主事講習B (H25.1.21～2.27)

※分割履修可

講義はインターネット配信です



島根県の受講者の多くは、「社会教育主事講習A」は広島大学で、「社会教育主事講習B」は、東部・西部社会教育研修センターで受講しています。
※受講料は無料です



平成23年度、社会教育主事講習Bは主会場(東京)をあわせて全国で10会場で開催されました。そのうち島根県では2会場で開催しており、大変恵まれた環境にあります。全国で266名の受講者のうち、島根県内の受講者は45名と多くの方が受講されました。

● 社会教育主事講習の内容



社会教育実践者にとって役立つ情報が満載!!

- 生涯学習概論
- 社会教育計画
- 社会教育特講
- 社会教育演習

- 社会教育に関わる基本的な考え方
- 現代における社会的な課題
- 社会教育事業と評価
- 学習相談や学習情報の提供
- 社会教育施設の役割
- 学習プログラムの立案の演習
- レクリエーション・スポーツ活動の実技演習など



● 問い合わせ先 ●

受講するためには受講資格等の確認が必要です。受講をお考えの方は下記までお問い合わせください。

島根県教育庁社会教育課 〒690-8502 松江市殿町1 0852-22-5429



社会教育主事講習修了者に聞く

江津市教育委員会 社会教育課 **植田紘司**さん

H22 社会教育主事講習A(広島大学で受講)



“社会教育主事講習”を受講しようと思ったきっかけは

平成22年の4月に、生涯学習課から社会教育課に課名が変更になり、その頃は社会教育って何だろうという感じでした。それまでは公民館で個人の要望に応えた講座等をするのが生涯学習ととらえていました。社会教育課になって、社会の要請って?地域課題って?と思っているときに、上司から「社会教育主事講習」受講の勧めがありました。自分の思いと、上司からの勧めのタイミングがあいました。

“社会教育主事講習”の特長とは

講習では一か月間缶詰に近い状態でしたから、頭の中は社会教育だけになりました。そうすると、テレビで見るニュースもいつの間にか社会教育につながったりして…。講習を終えて、普段の業務に戻っても担当する事業が社会教育と結ばれていると感じました。講習ではいろいろなことを学んだけれども、今になって考えると社会教育的な物の見方をする訓練だったのではないかと思います。知識は忘れても、できた物差しは残ります。その物差しで物事をはかったり、つなげたりできるようになりました。今の仕事にすごく役にたっています。

職務に対する気持ちの変化について

今まではいかに物事を効率的に進めるかでした。イベントなら、いかに楽にできるかって…。しかし今は、イベントのねらいや今後それをどうつなげていくかを考え、効率的な仕組みを作ろうという気持ちになりました。その時だけの効率ではなく、長く続くための効率性を求めたいと考えています。

また、仕事でいろいろな地域や現場に出かけることが多いのですが、社会教育の下地ができたおかげで、趣旨が何かを考えることができ、自信を持って現場に行けるようになりました。現場で説明もでき、人の意見も余裕をもって聞けるようになり、仕事の幅が広がりました。他にも、例えば地域教育協議会を開催するときには、趣旨を念頭におきながら、こ

う意見が活発に交わされるといいなあ、と頭の中で浮かぶようになりました。そのために実践者や組織の代表者など、どなたに出席してもらわなければならないかということも、すぐに頭に浮かぶようになりました。



研修会で事例発表をする植田さん

自分のミッションについて

私のミッションは、人づくりのしかけを作ることだと思っています。人と人というソフトをつなげて、仕組みを作っていく。その仕組みに血を通わせ、動かすことが社会教育主事のミッションではないでしょうか。市の職員は地域の活性化が命題です。それをどのようにして実行していくのかは難しいですが、私の中ではそれを社会教育を通してやっていこうという答えが出ました。人と人をつなげ、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

受講を考えている方へのメッセージ

今の社会は価値観も多様になり、複雑になってきています。大人も子どもも学習して成長していかないと乗り切れない時代です。それはまさに社会教育・生涯学習であり、それに携わる社会教育主事が一人でも多くいると心強いです。きっと自分自身の意識改革にもなるので、ぜひ受講をお勧めします。

社会教育主事講習を修了された方々は、現在県内各地で活躍中です。今回は2名の方に社会教育主事講習と現在の職務について聞いてみました。

浜田市安城公民館 藤井礼子さん

H17~18 社会教育主事講習B(西部社会教育研修センターで受講)



④ “社会教育主事講習”を受講しようと思ったきっかけは

受講のきっかけは、公民館主事になった時に当時の派遣社会教育主事に「今後もこの仕事を続けていくならば、専門的な勉強が必要になる。」と勧められたことです。分割履修もできるし、近くの「いわみ〜る(西部社会教育研修センター)」で受講できるのも魅力でした。

④ “社会教育主事講習”の特長とは

社会教育主事講習の魅力は何と言っても、この仕事が「大切なんだ」と思えることです。もし受講していなかったら、なぜそういうことをするのも考えずに公民館に勤めていたと思います。

その例を挙げれば、「社会教育」「生涯学習」とは何か分かり、公民館主事としてやるべきことが分かったことです。受講前は、ただ住民の要求どおりに生涯学習のお手伝いをしていましたが、受講後は教育という視点を持って、意図的に仕事をするようになりました。講習のときは、習っていることと業務が結びつかずたけれど、講習を終えて公民館に戻った時に業務と向き合っ初めて学習したことの意味が分かり、社会教育的な視点で公民館事業を考えるようになりました。公民館長が、「うちの公民館には専門職員がおるので、質の高い実践ができるようになった。」と言ってくれるようになったことは素直にうれしいです。

それからもう一つ。社会教育主事講習を一緒に受けた人たちとのつながりができたことです。仲間意識が芽生え、受講後も情報交換や悩み相談ができ、大変心強いです。



④ 職務に対する気持ちの変化について

社会教育の視点で実践を続けていくと、公民館に来る人が地域課題に関することを公民館で世間話として話題にあげ、それを聞きたい人が公民館に集まってくる。そういう意識を持っている住民が高齢者を中心に広がっていききました。さらに高齢者が子どもと関わるような事業をたくさん企画したことで、弥栄の小・中学生にも地域課題と地域の未来のことを考えてもらえるようになりました。まちづくりは人づくりという視点で公民館活動してきた結果、10年前に中学生だった子どもたちが、今は成人して弥栄に戻ってきて、まちづくり委員会の一員として、公民館活動を支えています。

④ 自分のミッションについて

地域にまちづくり委員会が設置され、成人層がまちづくりを目標に公民館で活動するようになってきました。現在の課題は、この世代に社会教育の視点、まずは人づくりに目を向けてもらっていかに活動してもらおうかということです。

④ 受講を考えている方へのメッセージ

受講内容は盛りだくさんで大変ですが、受講後、専門職をやっているという自信や自覚が身に付きます。社会教育主事講習で学習したことは10年やってきて必要なことでした。人と人がつながるために、役立つ手法が社会教育だと思います。公民館職員として、みんなと一緒に何かをしようという考え方なのでぜひ受講した方が良くと思います。

ただ受講される方は覚悟をもって受講されたほうがいいです。正直つらかったです。大人になってから何時間も人の話を聞かなくちゃならない(笑)。でも得るものはとてつもなく大きいです。

※本原稿は、研修センターの社会教育主事がお二人にインタビューした内容をもとに再構成したものです。

住民と公民館を結ぶ

公民館運営審議会の役割

公民館運営審議会(以下、公運審)は、公民館事業を見直していく重要な機関でしたが、平成11年の社会教育法の改正に伴い、公運審は必置制から緩和されて任意設置(社会教育法第29条)となりました。しかし、島根県の公民館等の実態調査では、ほぼすべての公民館等で公運審や運営委員会等を設置していることが分かりました。今後は、この公運審を活性化させ、より充実した公民館事業を展開していくことが、地域力の醸成につながります。今回は「平成22年度公民館の事業及び運営の実態に関する報告書」(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)を参考に公運審の役割についてまとめました。

公運審の仕組みと役割

公運審は、公民館等の運営に関して地域住民の評価と意見を取り入れるための大切な組織です。

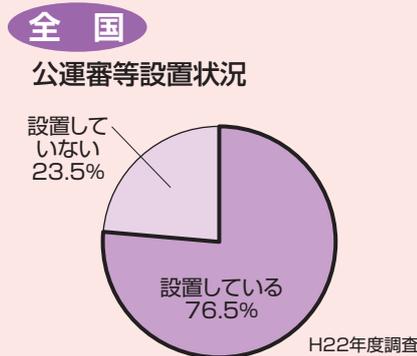
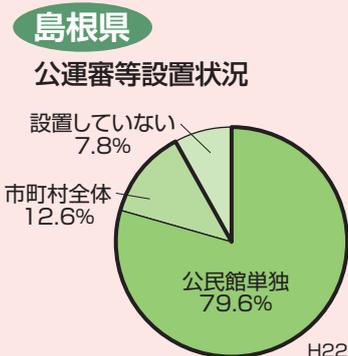


公運審で考えられる審議事項

- 公民館が立案した事業についての計画・運営に関する意見・助言
- 公民館の事業・運営に関する評価(施設利用状況、事業実施状況、満足度等)
- 公民館の施設・設備に関する問題
- 公運審の発意による提言・助言等

公民館等のよりよい事業運営

データから見る島根の公運審等の設置状況



島根県の公運審等の設置状況は、全体のほぼ8割(79.6%)の館が単独で設置しており、市町村全体での設置(12.6%)を含めると、全体の9割以上(92.2%)が設置しています。全国平均を上回っています。



島根県

公運審等の構成人数

構成人数	%
～4人	2.5
5～9人	9.5
10～14人	31.3
15～19人	23.9
20～24人	17.3
25～29人	11.1
30～34人	2.1
35～39人	0.8
40人以上	1.6
計	100

H22年度調査

公運審等の年間会議回数

年間会議回数	%
1回	7.6
2～3回	52.7
4～5回	30.8
6～7回	5.9
8～9回	0.4
10～11回	2.1
12～13回	0
14～15回	0
16回以上	0.4
計	100

H22年度調査

島根県の公運審等は10～19人の委員で構成された審議会等が半数(55.2%)であり、会議の回数も2～5回が83.5%を占めています。



全国

公運審等を構成する委員の所属

所属など	%
校長・教頭・教員	87.3
文化活動関係者	69.9
公民館利用者	64.2
PTA関係者	59.9
婦人会等関係者	56.9
青少年健全育成関係者	53.7
地域スポーツ関係者	49.7
...	
青年団等関係者	18.4

H22年度調査



交流センター運営協議会の様子
安来市荒島交流センター



全国調査をみると、公運審の委員委嘱に際しては、委員の「職業・経歴」、「性別」、「他の委嘱委員等との兼務状況」、「年齢」等が考慮されているようですが、次世代を担う青年層の参加をどのように推進していくかが大きな課題とされています。

よりよい公運審の姿を求めて

- 公運審は、公民館等の機能を高めるための重要な組織です。今後更により多くの施設で審議会の設置が望まれます。
- 確かな評価が公民館等を活性化させます。公運審の場が公民館運営の評価の場となる視点も必要です。(社会教育法第29条)
- 委員の委嘱においては、公民館利用者等、住民目線の視点が必要です。次代を担う「青年層」の参加を積極的に進めていきましょう。
- 福祉、NPO、医療保健関係者、企業関係者など幅広い分野からの任用が地域のネットワークづくりに役立ちます。

※全国のデータ

「平成22年度 公民館の事業及び運営の実態に関する調査報告書」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター より

■ 調査対象は、社会教育法第21条の規定に基づき設置されている市区町村立公民館のうち「中央館」または「中央館の機能を有する公民館」等1館。

※島根県のデータ

「公民館等職員の勤務実態・研修状況及び学習機会の提供状況に関する実態調査」(平成22年度調査)

島根県教育庁社会教育課、島根県立東部社会教育研修センター、島根県立西部社会教育研修センター、島根大学生涯学習教育研究センター より

■ 対象の「公民館等」とは、社会教育法の公民館だけでなく、実態として公民館の機能を担う、コミュニティセンター、交流センター、まちづくりセンター等も含む。

■ 把握できなかった無人の地区公民館等は対象外。

社会教育の実践紹介

江津市

長谷みんながいきいきと輝く♥ために!

江津市立長谷公民館 主事 山根 加代子

生涯学習センターとして、地域活動の拠点となっている長谷公民館は、旧長谷小学校の校舎を再活用しています。活動としては、ダンス、和太鼓、合唱、手芸、川柳、囲碁などを参加者同士で教え、教えられて、楽しい集いの場となっています。

「公民館はみんなの輝きのために、みんなは長谷の輝きのために」をモットーに毎年開催する公民館祭りでは、公民館で学び合ったこと



公民館祭：和太鼓クラブの発表

のステージ発表や伝統芸能である田植え囃子、集落ごとの神楽、餅つきやバザーなど、世話係から出演者まで一人が何役にもなって活躍し、アットホームな雰囲気

気で祭りを盛り上げています。地域の方からは「一年に一度この会場で長谷の人に出会うのが何よりの楽しみ!」と喜ばれ「来年もこの会場で会いましょう～」で祭りを締めくくっています。また、舌きり雀の原話とも言われる火たき雀の里475mの嘶山(はなしやま)があり、毎年春には地域の方と登山し360度故郷の景色を一望して魅力を再発見しています。



嘶山登山 475mの山頂にて

地域の皆さんの力を集結する『長谷公民館祭り』をこれからもずっと続けていくことが地域の皆さんが元気になり、いきいきとした地域づくりになります。日々の公民館クラブ活動を支えながら、今年も皆さんの笑顔を生み出したいと思います。

松江市

「みんなでまちづくり」

～わがまちについて ちょっとかんがえてみませんか?～

松江市島根公民館 館長 小川 英二

島根公民館では、島根大学准教授毎熊浩一氏を講師に迎えて「まちづくり講座」を開設しました。毎熊先生は「ワールドカフェ」という話し合いの手法を用い、参加者が気軽に誰とでも自分の意見を言えるような雰囲気を出してくれました。「夢」「悩み」「宝」「わたし」という4つのテーマを設定し、各グループに分かれ一つのテーマで10分ずつ話し合いました。



毎熊先生によるワールドカフェ

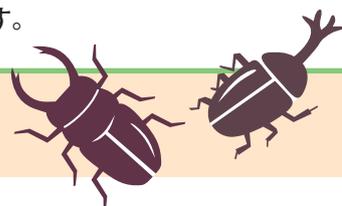
当日参加された島根町内の10代から70代の男女62名が、自由に自分の意見を出し合いました。

最後に、中学生5名を含む約10名の参加者

が感想を述べてくれましたが、みなさん講座に参加したことに満足しておられ、今後もこのような講座を続けてほしいという声が多く寄せられました。一人の青年が、「多くの人たちの意見が聞けてよかった。島根町をこれからみんなで盛り上げていきましょう。」とまとめてくれたときは、参加者全員の顔が熱気で輝いているように見えました。今回の「まちづくり講座」が地域に目を向け、諸課題について意識し、老若男女の区別なく話し合えるきっかけになることを期待しています。



最後は参加者が感想を発表



県内派遣社会教育主事 奮闘中!

人づくりからのまちづくり
～教育の魅力で過疎・少子化を食い止める～

島前高校魅力化プロジェクト

海士町教育委員会 派遣社会教育主事 浜板 健一



●忍び寄る危機 ～高校の存続問題

本島には、島前3町村で唯一の高校である島根県立隠岐島前高等学校(以下、「島前高校」)がありますが、急激な少子化の進行を受けて、この10年間で生徒数が半分に激減。全校生徒90人程度(全学年1クラス)となり、このままでは高校の存続が危ぶまれる状態となりました。

島前高校を失うことは島前3町村にとって文化的・経済的に計り知れない損失となります。持続可能なまちづくりを進めるといふ挑戦は、島から高校がなくなることによって水泡に帰すこととなります。更に超少子高齢化が急速に進み、人口構成が一層偏り、島の活力が急激に低下してしまうことも容易に想定されます。高校の存続は島の存続と直結する問題です。



●地域と学校の連携による魅力化プロジェクト

こうした潜在的な危機に対して、「ピンチは、変革と飛躍へのチャンス」という発想のもと、H20年3月、島前高校と島前3町村による一大連携組織「隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会」を発足し、高校改革の母体としました。その後、高校の教職員と島前地域の有志による「魅力化推進協議会」も発足し、実質的な取組が開始されました。

島前高校の教育の特徴

島前高校では、地域の特色を生かした授業を行い、地域の将来を担う人材の育成を目指しています。夢探究では、徳島県上勝町・(株)いりどりの横石氏(H22年度)や島内の方を外部講師として迎え、生徒一人ひとりの夢を掘り下げる授業を行いました。新設の地域創造コースでは、地域学、フードデザインなど、地域と深く関わりなが



ら、社会に出て必要となる力を身につける授業を実施しています。

また、今まで弱みだと見られてきた「小規模校」ということを、一人ひとりに手厚い指導が可能な少人数制という強みと捉え、超少人数指導と充実した個別指導で一人ひとりの個性と学力を徹底的に伸ばし、国公立大学などへの進学希望も実現する「特別進学コース」を設置しました。

隠岐国学習センターの取組

隠岐国学習センターは平成22年6月に開所した公営塾です。一般的な進学塾とは異なり、島前高校と連携をとりながら生徒の進路実現を支援します。単に勉強だけでなく、社会に出て必要な力を身に付ける場であることが隠岐国学習センターの特徴です。現在、島前高校の全校生徒の約3分の1が通っています。



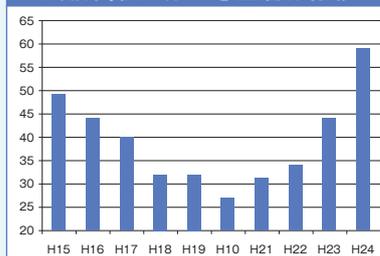
全国からも意欲ある生徒を募集

県外からも生徒の受け入れを可能にし、全国からの生徒募集を開始。全国からの意欲の高い生徒の確保により、地元生徒への刺激と高校の活性化を目的とし、寮費全額、食費毎月8,000円、里帰り交通費等を補助する島留学制度も新設しました。

志願者数は年々減少していましたが、「島前高校魅力化プロジェクト」を契機に増加に転じました。平成24年度は7年ぶりに2クラスが復活しました。



島前高校の第一志望者数推移



8月～12月の主催講座のお知らせ

東部社会教育研修センター 出雲

- 9月** 12日(水) **専門研修** 学習プログラム
 13日(木) 企画・立案力アップ講座
隠岐開発センター(海士町)
- 26日(水) **基礎研修** 人と人をつなげる
 コミュニケーション講座
- 10月** 12日(金) **課題別研修** 親学ファシリテーター
 13日(土) 養成講座
- 27日(土) **課題別研修** 親学ファシリテーター
 28日(日) 養成講座(追加)
- 11月** 14日(水) **専門研修** 地域課題解決のための
 15日(木) ファシリテート力アップ講座
飯南町
- 28日(水) **専門研修** コーディネートカ
 アップ講座
- 12月** 3日(月) **課題別研修** 親学ファシリテーター
 フォローアップ研修

東部社会教育研修センター

検索



※日程や会場をやむを得ず変更する場合があります。
 最新情報はホームページに記載しますので、ご確認ください。
 ※会場表記をしていない研修は、全てセンターで実施します。

西部社会教育研修センター 浜田

- 8月** 23日(木) **基礎研修** 地域課題解決のための
江津市 ワークショップ講座
- 28日(火) **課題別研修** 親学プログラム
浜田市 体験講座
- 9月** 4日(火) **課題別研修** 親学ファシリテーター
 5日(水) 養成講座
益田市立市民学習センター
- 19日(水) **専門研修** 地域課題解決のための
 20日(木) ファシリテート力アップ講座
邑南町元気館
- 25日(火) **基礎研修** 人と人をつなげる
 コミュニケーション講座
- 10月** 17日(水) **基礎研修** 説明力を高める
邑南町元気館 プレゼンテーション講座
- 11月** 14日(水) **基礎研修** 説明力を高める
 プレゼンテーション講座
- 27日(火) **専門研修** コーディネートカ
 アップ講座
- 12月** 4日(火) **課題別研修** 親学ファシリテーター
 フォローアップ研修

西部社会教育研修センター

検索



お知らせ

平成24年度 第98回全国図書館大会 島根大会

大会テーマ

「文化を伝え未来を創る図書館
 ー古事記編纂1300年 神々の国しまねから」

開催日程 平成24年10月25日(木)～26日(金)

第1日目 25日 開会式、全体会、
 記念講演(玄田有史氏)
 会場 島根県民会館大ホール

第2日目 26日 分科会
 会場 島根県民会館・くにびきメッセ

平成24年 第35回中国・四国地区 社会教育研究大会 島根大会

大会スローガン

「集おう!神々の国へ 創ろう!社会教育が行く道を」

研究主題

「地域の教育力を育むための社会教育の役割を考える」

開催日程 平成24年11月21日(水)～22日(木)

第1日目 21日 開会行事、基調講演、
 パネルディスカッションなど

第2日目 22日 分科会

会場 島根県民会館

編集スタッフから

今年度も東部・西部社会教育研修センターが主催する講座を、毎回たくさんの方に受講していただいております。中には公民館等職員の必須研修として位置づけていただいた市町村もあります。また、「市町村支援事業」につきましても、4月当初からさっそくご活用いただいております。感謝しているところです。これらの事業を通じて、「より良い地域をつくりたい」と願う各地域の社会教育実践者の“熱い魂”にふれるたびに、その願いにしっかり寄り添うセンターでありたいと決意を新たにしております。そして同時に、「やっぱり社会教育は素晴らしいな」と実感しているところです。
 (東部社会教育研修センター：古田真一郎)

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
 Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
 E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみ～3F
 Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
 E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp